

向学館通信

2009・09・28

文化祭・体育祭など行事の多い時期です。さまざまな方面に、力いっぱい自分をためしてください。

★10月1日、2日は調整休講日で、お休みにさせていただきます。

私立中学・高校の説明会に参加しました。

9月の初めから、多くの私立校で、塾を対象とした説明会がありました。十数校の説明会に参加しました。

私立学校はどこも、少子化のなかで生徒数の確保という難題を抱えながら、懸命の努力をされています。それでも、定員より入学者数が下回っている学校がかなりあります。こうした状況で、各学校は、教員の再教育をしたり、教育カリキュラムを改善したり、コースの変更をしたり、英語学習も海外留学を長期に行って「生きた英語」を学ばせるなど、さまざまな努力がなされています。

私学は、熾烈な競争にさらされているため、「学校の評判をよくする」「低い成績で受け入れた生徒でも、高い所へ入学させる」「有名大学への進学を増やす」「勉強時間を増やし、実力を向上させる」「人間としての力量を高める」などの面に力を注ぎ、前進しようとする気持ちがきわめて旺盛です。親御さんの世代で、各校の「昔の評判」を気にしている方がおられるようですが、いまではどこも学校の内容が昔とは一新しています。

とくに注目したのは、中学3年生で偏差値が40台あるいは、50台の下の方にいたような人が高校3年間の勉強で実力を伸ばし、かなりレベルの高い大学へ進んでいるというケースが多く、多くの学校であったということです。つまり、伸ばし方、育て方が上手な私立学校が増えてきているということが、印象的でした。

いまから、各学校で学校見学の機会が設けられていますので、中1、中2の生徒も早めに高校の見学をして、勉強の動機づけにもしてほしいと思っています。(各私学のオープン・スクールのチラシは塾に置いています)。

英語の成績が伸びない人の勉強法

英語も数学も同じように、問題集をつぎつぎとやっていく人がいます。数学は、そういうやり方で力がついていきます。数学は、問題を「解く」ことで力をつける学問なので、こうした方法が理にかなっています。

しかし、英語は「解く」よりも「覚える」ことを勉強の中心に据えることが必要です。単語や熟語は、中学生の間でも、毎日いくつずつ増えていきます。新しく出てきた単語を次々と覚え、正しく書けるようにすることが、英語力向上の基礎です。実際、テスト結果を見ても英語の点数が低い人は、単語を覚えていない、スペルを間違える、など、基礎的な「覚える」という作業をしていないようです。

他方、数学には、英語の単語・熟語に当たるような作業分野はありません。数学はひたすら「解く」ことで力量が増していきます。英語の場合は、英文和訳や英作文は「解く」という作業にやや近いかもしれませんが、基礎となる単語や文法が身につけていなければ、どうしようもありません。この点では、国語の勉強に似ています。国語も、単語、漢字、熟語などの基礎力がないと、何が書いてあるのか、意味が正しく読み取れません。ところが、読解が弱いという生徒は、たいてい、漢字が読めないとか、知らない言葉が多すぎるということです。つまり、英語と同じで、基礎である「単語」に弱いのです。

当塾では、英語力を上げるために、単語を覚える、英文を暗記する(暗唱する)などに力を注いでいますが、「覚える」という作業が苦痛なため、テキストの問題を次々とやって、勉強した気分になりたがる人がいます。しかし、このようなやり方をしている人は、成績が伸びません。英語の勉強は1にも2にも「覚える」ことです。だから、頭の良さ悪しには関係なく、覚える努力をどれだけしたか、にかかっています。「覚える」のは孤独な作業です。テキストの答えを見て間違いを赤字で直すだけでは覚えません。覚えるための時間をとってください。